

知ろう！世界の子どもたち

このコーナーでは、私達が想像もつかない世界に生きている子供達の事を、お伝えしようと思います。これを読んで、特別に、何かを始めようと言う事ではありません。勿論、何か役に立てる事があるなら、それを始めるのもいいでしょう。しかしながら、それは難しいと推測されます。ですから、まずは『読んで』『知って』『考えて』ください。そこからスタートです！

保護者の方が読まれてから、保護者の方の判断で、お子さんに分かりやすく伝えていただいてもかまいません。

お話 5

アフリカの国スーダン。その南部の地域では、土やワラで作った小屋に住み、牛を飼う……。多くの人々が、そんな伝統的な暮らしをしていた。この南部地域は1983年より、北部スーダンのイスラム主義政府と、非イスラムの南部の住民との間で内戦になっていた。そして、内戦は、この地域で石油が見つかった事によって更に激化し、スーダン政府軍による南部の人々の虐殺が始まった。

スーダン政府軍の爆撃や重火器による無差別な攻撃によって、村々は破壊され、大人は殺され、女の子は奴隷として捕まった。襲われた村の子供たちは、激しい銃声と人々の叫び声中、無我夢中で村から離れた。

そして気付くと、子供たちだけがアフリカの荒野に取り残されていた。そのほとんどが4歳から13歳くらいの男の子達だった。大人たちの世界から遠く離れた場所に子供達だけ……。後にこの子供達は、「スーダンのロスト・ボーイズ(迷子の男の子達)」と呼ばれるようになる。

赤道直下のアフリカの荒野は、人間の子供達の生きる場所では無かった。小さな子達は、すぐに疲れて歩けなくなった。そんな幼い子を、年上の子達が担いで歩いた。子供達は助け合った。

だが、次々に飢えと乾きに倒れ、動けなくなった子供から死んでいった。雑草を食べ、泥をすすったりもしたが、お腹をこわしたり、毒のある草を食べたりして、沢山の子供たちが死んだ。時折、上空を通過する国際赤十字などの救援隊が子供達を見つけ、食料を投下して行ったが、彼らがこの子達にできる事はそれだけだった。

地上は激しい戦場で、国連や赤十字の車両も容赦なく攻撃されていた。子供達はライオンなどに襲われ、人間の戦闘にも巻き込まれた。子供達は数週間、数ヶ月歩き続け、ついにスーダンの国境を超え、隣の国エチオピアの難民キャンプにたどり着いた。やっと死の恐怖から逃れる事ができた……。子供達はそう思った。

だが、まだ終わっていなかった。1991年、エチオピアに新政権が樹立された。エチオピアの新政権は、難民キャンプに反政府組織のメンバーがいるとして、掃討作戦を開始した。戦車や兵士がキャンプにやって来た。そして軍隊は、難民達に攻撃を開始した。逃げ惑う子供達に銃弾が浴びせられた。子供達は川岸へと追い詰められ、激しい流れへ飛び込んでいった。そこで数千の子供達が銃撃で殺され、溺れ死に、ワニに食べられて死んだ。

子供達はその後もさまよい続け、1992年、ケニアのカクマ難民キャンプにたどり着いた。エチオピアの難民キャンプの時、2万6千人ほどいた子供達のうち、ケニアに着いたのは半分の子供達だけだった。そして、この子達が歩いた距離は、およそ1000マイル……。1600キロにも及んだ。

内戦は2005年まで続き、戦闘とそれに起因する病気と飢餓により、スーダン南部全体で、200万人ともいわれる人々が犠牲になった。ケニアにたどり着いた「迷子の男の子達」の一部は、カナダ、オーストラリア、アメリカなどに難民として受け入れられ、特にアメリカは、7000人の子供達を受け入れた。アメリカに渡った彼らを描いたドキュメンタリ映画「God Grew Tired of US」は、2006年のサンダンス映画祭で、ドキュメンタリ部門のグランプリと観客賞を受賞した。その主人公の一人、当時13歳だったジョン・ダウは、NGOを作り資金を集め、彼の生まれ故郷であるスーダン南部のDuk地域へ病院を設立する事になった。15万人住むこの地域で、初めて建てられる病院だ。この映画では、ニコールキッドマンがナレーターを務め、ブラッド・ピットが資金を提供した。また、ジョン・ダウの病院設立に対し、アンジェリーナ・ジョリーとブラッド・ピット夫妻は10万ドルの資金を援助した。